

6年2組 国語科学習指導案

日 時 9月26日第3校時
場 所 6年2組教室

- 1 単元名 宮沢賢治の生き方から学ぼう
- 2 教材名 「イーハトーヴの夢」「やまなし」「虔十公園林」「十力の金剛石」
「セロ弾きのゴーシュ」「グスコーブドリの伝記」等

3 指導の立場

(1) 教材観

本単元では、宮沢賢治の作品を読み味わいながら作者の生き方を知り、その生き方から自分の生き方を見つめ直すことを通して、自分の考えを深める学習をしたいと願い、単元名を「宮沢賢治の生き方から学ぼう」にした。しかし、賢治の生き方を学ぶには、教科書教材の物語「やまなし」と伝記「イーハトーヴの夢」だけでは、賢治の作風を感じ取るのが難しいと考え、詩「雨ニモ負ケズ」物語「虔十公園林」物語「十力の金剛石」物語「セロ弾きのゴーシュ」物語「グスコーブドリの伝記」の4作品も扱う。この4作品は、「人間も動物も植物も、たがいに心が通じ合うような世界」が賢治の夢だったということが伝わりやすい内容であることと短編であるという理由から選んである。

本単元導入では、自分の生き方や将来の夢について各自が考えたことを書く活動を取り入れる。そして、賢治の生き方の象徴である詩「雨ニモ負ケズ」と「イーハトーヴの夢」から作者の生き方を読み取る。次に、物語「やまなし」で、作品の構成と比喻表現などの表現の特徴から、賢治作品の作風を感じ取らせる。その後、植物と共存する生き方が書かれている「虔十公園林」と「十力の金剛石」、動物と共存する生き方が書かれている「セロ弾きのゴーシュ」、人間全体の幸福を求める生き方や自己犠牲の生き方が書かれている「グスコーブドリの伝記」の4作品の中から、1作品を選び、同じ作品を選んだ集団を母体としたグループで読み取りを深める。さらに、グループで深めた読み取りの内容を、お互いに交流しあうことで、賢治の生き方をもとに自分の生き方を見つめる活動に入る。単元終末では、賢治の生き方から学んだことを生かし、もう一度自分の生き方を見つめ直しながら、今後の生き方について書きまとめる活動で締めくくる。

ここで学んだことを生かし、11月に行われる創立30周年記念式典では、宮沢賢治の考え方や生き方が聞き手に伝わるような音読の工夫をして、6年生全員で群読発表を行う予定である。また、単元終末で書いた作文は、3学期に卒業スピーチとして全校の前で一人一人が発表する予定でいる。自分の生き方に自信をもって堂々と発表できる姿を目指したい。

(2) 本単元のねらいに関わる児童の実態

○関心・意欲・態度

教室に「宮沢賢治コーナー」を設置したり、読書記録などをするようにしたりしたことをきっかけに、多くの児童は宮沢賢治の作品に興味をもつようになり、進んで賢治の伝記や作品を読む姿が見られるようになった。

○読むこと

1学期の単元「作品を読み、自分と対話しよう」では、重松清の短編「カレーライス」を読み、主人公の少年と自分の状況を比べることができた。その時は、全体交流による読み深めであったが、本単元のような「グループによる読み深め」は初めてである。自主的にグループ交流を進め、グループの仲間と協同して、読み深めるための手立てが必要である。

(3) 指導観 研究テーマに関わって

①言語活動の充実を図った単元指導計画のあり方

○ねらいや目的に応じた言語活動の充実

「読むこと」の言語活動例のア 伝記を読み、自分の生き方について考える言語活動
取り上げられた人物の生き方や人生等を描いた伝記を読み、自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動である。
伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。
伝記には、人物の取り上げ方や書き手によって偉人伝や史伝などがある。いずれも、人物の生き方を描いているので、物語の詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写が用いられることが多い。それと同時に、人物の生き方や考え方、その偉業などを意味付けるといふ点から事実の記述や説明の表現が用いられる。(略)

②学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

○願いや見通しをもつ場、交流して学び合う場、学習を振り返る場の設定及び工夫

第一次の第一時で、学習の見通しをもち、自分の生き方を見つめ考える場を設定した。宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」を音読し、賢治の生き方を知った上で、自分の生き方について考えさせた。第二次では、グループで交流して学び合う場を設定した。自分たちで作った課題を追究する活動を通して、宮沢賢治の生き方を深く理解させるようにする。

毎時間、個人課題を設定し、グループで追究した後に学習を振り返る場を設定した。個人課題の答えだけでなく、作品の主題と賢治の生き方を関連付けながら自分の生き方を見つめ直すことができるようにした。

③協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

○学び合いを進める話し合い指導のステップや手立ての明確化

- ・本単元では、グループ交流をすることで、全体交流よりも少人数にして、各自の理解を深めやすくする。ただし、より主体的・自立的な進行が必要となる。そこで、「話し合いの手引き」を作成し、活用することで、司会者および話し手・聞き手が共同的に学び合えるようにする。
- ・グループ交流を行う際、すべてのグループを見届け、支援することは困難である。そのために、各グループの課題を予め把握しておき、課題の価値に気づけるような発問を用意しておく。机間巡視の際、その発問を投げかけ、価値に迫れるようにする。

4 単元指導目標

◎宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」と、「虔十公園林」「十力の金剛石」など賢治の生き方が表れた作品を複数読み、「人間を含めたすべての生き物の共存と幸せを願って行動した賢治の生き方」から自分を見つめ直し、自分の生き方について考えをもつことができる。

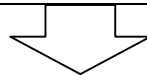
○宮沢賢治の生き方や作品の主題について進んで考え、教室の宮沢賢治コーナーや図書館などにある賢治の伝記や作品を進んで読み、自分の生き方について考えようとしている。

5 単元指導計画(16 時間)

次	時	目標	主な活動内容	指導の援助・評価
1	1	学習の見通しをもち、自分の生き方を見つめ考えることができる。	①詩「雨ニモマケズ」を音読する。 ②本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 ③教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。 ④自分の生き方について考える。	・導入で、賢治の生き方の象徴である詩「雨ニモマケズ」を音読する。 ・自分の生き方を書いた用紙は背面に掲示する。 【関】 自分を振り返り、将来の自分の夢に向かって今がんばっていることが書いている。
2	2・3	キーワードをもとに、賢治の理想とする世界や生き方を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 伝記「イーハートブの夢」を音読し、賢治が理想とする世界はどんな世界か、理想実現のためにどんな生き方をしたか、読み取ろう。 ②「一人読み」をする。 ③全体交流をする。	・文章全体を読みながら「理想」「夢」「考え方」といったキーワードを意識しながら拾い読みをする。 【読】 「人間が人間らしく～」「人間も動物も植物も～心が通じ合う～」という賢治の世界や生き方を読み取り、ノートに記入している。
	4	賢治の自己犠牲の生き方を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 「雨ニモマケズ」を暗唱し、賢治が願った生き方はどんな生き方か、読み取ろう。 ②「一人読み」をする。 ③全体交流をする。	・「その行動から、どんな考え方が分かるか」「その考え方や行動はどの作品とつながっているか」と発問する。 【読】 「慾はなく」「西に～東に～南に～北に～」 「でくのぼう～」という賢治の生き方を読み取ることができる。

	5 6 7	やまなしを読んで、話し合いたいことを考え、書き表すことができる。	①本時の課題を確認する。 「やまなし」を読み、賢治の描く作品世界にはどんな特徴があるのか、読み取ろう。 ②各自が「思ったこと、話し合いたいこと、疑問に思うこと」をそれぞれ考え、ノートに書き出す。 ③グループで、読み取りの課題を決め、話し合う順番を決める。（3～5個） ④「一人読み」の後、グループ交流をする。 ⑤全体交流をして、賢治の作品の特徴をまとめる。	・5時間目は、課題を生み出すと共に、作品の構成と表現の特徴を確かめる。（叙述レベルの表現） ・6時間目は「5月」の場面、7時間目は「12月」の場面を読み取る。 【関】 グループ交流に進んで参加している。 【読】 キーワードから主題について考えている。
2	8 ・ 9 ・ 10	自分が選んだ宮沢賢治の作品の主題を読み取ることができる。	①本時の課題を確認する。 自分が選んだ作品を読み、作品の主題と自分の生き方について考えを深めよう。 ①自分が選んだ作品を読み、作品の主題を考える。 ②感想、疑問、話し合いたいことをグループ交流する。 ③自分の生き方を再度振り返る。	・以下の必読書の中から選ぶ。 ・「虔十公園林」 ・「十力の金剛石」 ・「セロ弾きのゴーシュ」 ・「グスコーブドリの伝記」 【読】 作品の主題について考え、自分の生き方と比較しながら、再度自分を振り返る。
	11 本時 ・ 12 ・ 13	自分たちが選んだ作品の主題と自分の生き方について考えを深めることができる。	①本時の課題を確認する。 作品の主題と自分の生き方について考えを深めるために、作品別グループに分かれて話し合おう。 ②各グループで決めた課題に関して交流する。	・「話し合いの手引き」を活用してグループ交流をすることを確認する。 【読】 作品の主題を読み取りながら、同時に賢治の生き方を読み取る。
3	14	賢治の生き方と関連付けながら、自分の生き方を見つめることができる。	①本時の課題を確認する。 シンポジウムを通して、賢治の生き方を学び、自分の生き方を見つめ直そう。 ②シンポジウムを行い、グループ及び全体交流をする。	・シンポジストは、「登場人物の説明」「あらすじ」「この作品で賢治が伝えたい生き方」「賢治の生き方を踏まえた自分の生き方」を発表する。 【読】 4つの作品の相違点と共通点を見つけ出す。

15	賢治の生き方と関連付けながら、これからの自分の生き方について考え、作文にすることができる。	①本時の課題を確認する。 賢治の生き方から学んだことを生かし、自分の生き方を見つめ直し、今後の生き方を書きまとめよう。 ②各自で書きまとめた後、グループで交流する。	・四百字詰め原稿用紙1枚で書くことを条件とする。 ・作品名を明記することや表現の引用の仕方等を指導する。 【書】 賢治の生き方と関連付けながら、これからの自分の生き方について考え、書いている。
----	---	--	--



創立30周年記念式典：賢治の思いが伝わるように「雨ニモ負ケズ」を群読する。
卒業スピーチ：自分の生き方について、全校の前でスピーチする（3学期）

8 本時のねらい

4つの作品別グループに分かれて話し合うことを通して、自分たちが選んだ作品の主題と自分の生き方について考えを深めることができる。

9 本時の展開（11／15）

過程	主な学習活動		指導・援助
つかむ	① 本時の課題を確認する。 課題：作品の主題と自分の生き方について考えを深めるために、作品別グループに分かれて話し合おう。 ② 今日の学習の進め方を確認する。 ③ 自分のめあてを確認する。 Aさん：「十力の金剛石」で、なぜ王子は、宝石をもちかえらなかったのか分からないので、仲間から学びたい。		①自主的にグループ交流を進め、話し合いを深めるために、各グループで「話し合いの手引き」を活用することを確認する。 ②学習の見通しが立てやすいように、「今日の学習の進め方」を掲示にして示す。 ③自分のめあてについて、グループ交流の始めに各自が発表し、めあて達成の自覚を促す。
考える・広げる	④ グループで交流する。 全作品共通の課題 A「この作品で賢治はどんな生き方が大切だと伝えたかったのか」 B「賢治の生き方から学んだことを生かして、自分はどんな生き方がしたいか」		
	度十公園林 課題 ・度十は、どうして杉の木を植えようとしたのか。 交流 ・度十が植えた林が子どもたちを育ててきた。植物を守り育てる生き方を伝えたかったと思う。 生き方 ・度十のように、自分にとって大切な	十力の金剛石 課題 ・なぜ王子は 宝石をもちかえらなかったのか。 交流 ・ありのままの自然の尊さに気付き、大切に生きる生き方を伝えたかったと思う。 生き方 ・日常の大切さに気付き、ありふれた	セロ弾きのゴーシュ 課題 ・ゴーシュは、動物たちに対してどういふうに接し方が変わったか。 交流 ・動物と人間は平等である。そんな動物から音楽を学ぶ生き方を伝えたかったと思う。 生き方 ・どんな相手も対等に接して、いばらずに相手から学ぶ生き

	ものを守り続ける 生き方がしたい。	ものを大切にする 生き方がしたい。	方がしたい。	働く生き方がし たい。
	補助発問例 「度十は、どんな生き方 をしたと言えるか。」 「『なにがかしこくて、 なにがかしこくないか、 分かりません』とは、ど ういう意味か。」	補助発問例 「『十力の金剛石』で、 王子の生き方の変化が分 かる場面はどこか。」 「どんな体験をしたから 、王子はそうに変わ ったのか。」	補助発問例 「ゴーシュはどうして演奏 が上手くなったのか。」 「ゴーシュは動物たちから 音楽について何を学んだか 。」	補助発問例 「グスコブドリの行 動は、何を大切にした生 き方だと言えるか。」 「グスコブドリの最 後の言葉から、賢治は何 を伝えたかったのか。」
ま と め る	⑤ 自分のめあてについて振り返る。 Aさん：めあてにあった疑問が解決した。Cさんの意見を聞いて、 ありのままの自然こそ宝みたいなものだと分かった。			⑤自分のめあてを意識して取 り組んだ児童を意図的指名 して学びの深まりをほめる。